

第7回国際医療福祉大学学会学術大会

療養病棟における高齢者の口腔内現状とその課題

国際医療福祉大学看護学科 ○ 謝海棠

2017年8月27日大田原

[研究背景]

- ▶ 口腔ケアは、高齢者のQOLに関わる重要なケアとして着目されている。特に療養病棟の患者は後期高齢者・終末期患者が多い、要介護者が殆どであり、口腔ケアは看護・介護提供者の質に左右される。
- ▶ いままで私達は、口腔ケアに力を入れてきたが、対象者の口腔内の状況に合わせた、苦痛を緩和するケアには至っていなかった。また、最近、誤嚥性肺炎予防の口腔ケア、特に口腔内乾燥へのケアが重要であるといわれている。

[目的・対象者]

A病院の療養病棟入院中の高齢者口腔内の現状を知り、口腔内諸症状緩和への第一歩として口腔内調査を行い、ケアの課題について検討、報告する。

1. 調査対象：療養病棟に入院中の高齢者の前期高齢者および後期高齢者で合計34名を対象に調査した。

2. 調査実施日：平成28年6月、室温25度、湿度65%

[方法]

1. 口腔内調査：歯科技師の協力の下、BOHSE表（KAYSER—JONES BRIEF ORAL HEARTH STATUS EXAMINATION）を訳したアセスメント表3）を用いる調査した。

BOHSE調査内容は①リンパ腺②唇③舌④頬の内側⑤口蓋⑥歯茎/入れ歯の下⑦唾液⑧入れ歯の状態⑨噛み合せ⑩口腔内の清潔の10項目について、ケアの必要度を0点から2点の3段階で評価した。

2. 口腔乾燥調査：唾液分泌状態調査をした。

口腔唾液分泌状態の調査は、安静時唾液量を舌下部にロールワッテを3分間留置し、その重量を専用道具で測定した。

[倫理的配慮]

本研究は身体侵襲を伴わない通常の看護ケア範囲内であると判断し、調査の主旨について本人と家族には口頭で承諾を得る。

プライバシー保護のもとで発表することについて本人と家族より同意を得ており、また、当施設の看護倫理委員会の承認を得た。

[結果 1 : 対象者の属性]

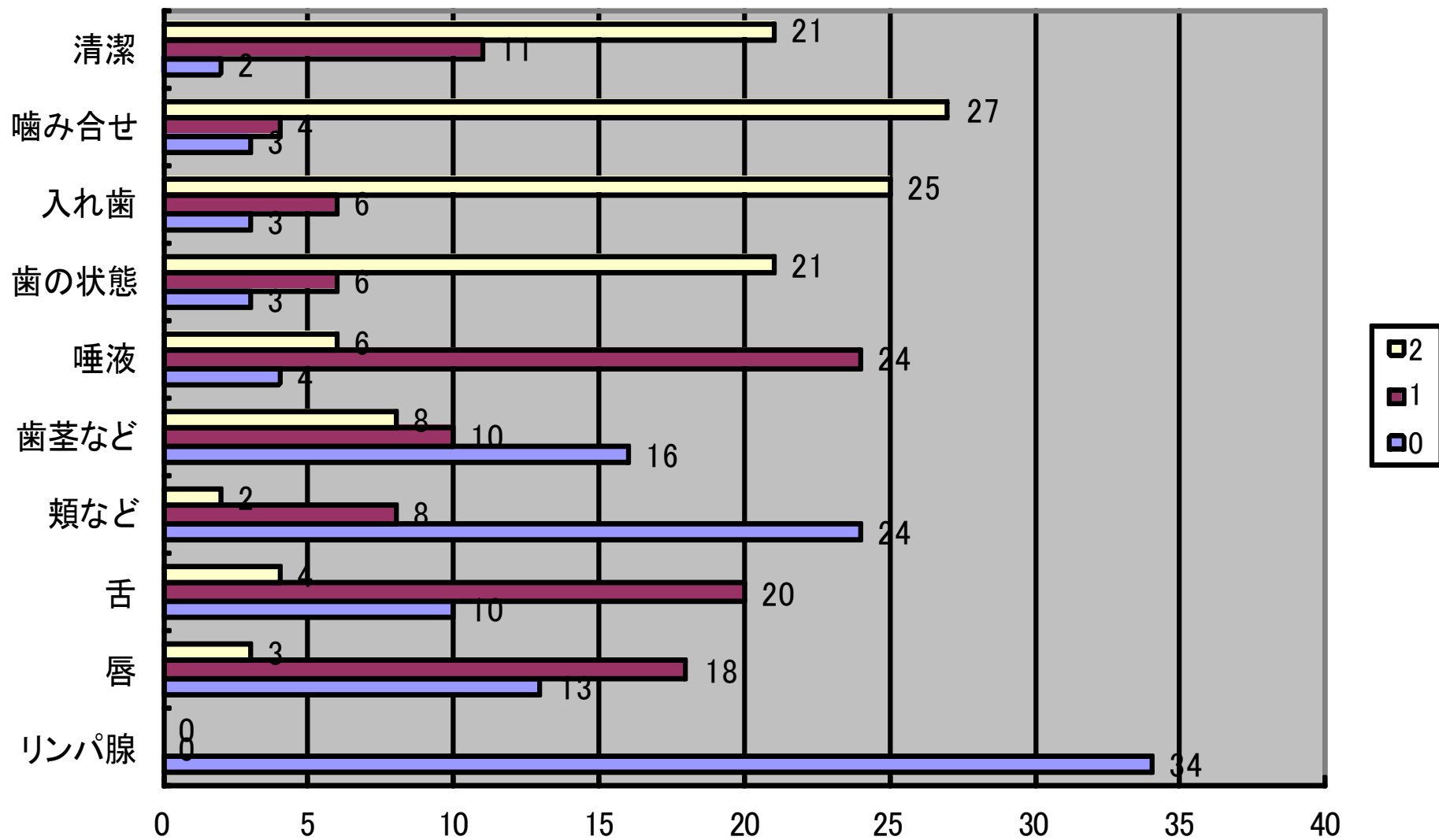
性別	男性12名 (35.2%)		女性22名 (64.7%)	
平均年齢	78.5歳		84.4歳	
内科	心臓血管外科	外科	整形外科	脳神経外科
16名 (47.0%)	2名 (5.9%)	5 (14.7%)	4名 (11.7%)	7名 (20.0%)
食事形態	経口摂取		経鼻栄養	胃瘻栄養
	11名 (32.3%)		8 (23.5%) 名	15名 (44.1%)

[結果 2]

BOHSEのアセスメント項目で、10項目で全て問題がないものがいなかった。「口腔内清潔さ」(94.1%)、「噛み合せ」(91.7%)、「入れ歯の状態」(91.9%)の項目で問題のある者が多かった。やや問題のある項目は「唾液」(88.2%)、「歯の状態」(82.3%)、「舌」(70.0%)、「唇」(61.8%)で多かった。

また、1点と2点を合わせると、「歯茎/入れ歯の下」(52.9%)、「頬の内側、口蓋」(29.4%)に関する問題が多かった(図1)。

図1：. BOHSEのアセスメント項目の結果

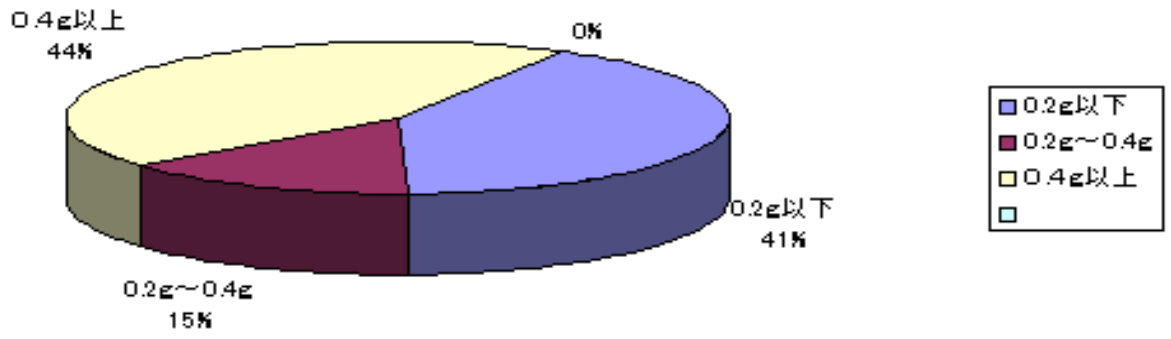


[結果 3]

口腔乾燥は一般の高齢者では、40～50%あると言われているが、今回の研究では6割程度の高齢者は口腔乾燥が著明であった。また、半数以上の高齢者が、唾液分泌の低下傾向にあった。全身状態や口腔機能の低下があり、口唇閉鎖なしの患者数(23人、67.6%)が多いため、口呼吸をしている者が多かったので、乾燥が顕著であった(図1)。

図2:唾液量測定結果

健常者:0.4g以上/min
要注意者:0.2g以下/min



[考察 1]

1. 口腔内の湿潤を保ち清潔にするには、高齢者にとって最も重要な課題であると考えられる。
2. また、今回、口内を観て、口内炎、残歯で傷つけられた粘膜、口蓋にべったりはりついた痂皮が観察された。張りついた痂皮は剥がれ落ちて不顕性誤嚥のリスクとなる。高齢者が誤嚥性肺炎の原因で死亡する事が多く、誤嚥性肺炎の原因は口腔内細菌の不顕性誤嚥であり、口腔内の湿潤を保ち清潔にするには、高齢者口腔ケアでもっとも重要な課題である。
3. さらに、口腔内ケアに介入することは苦痛を緩和することだけではなく、口腔環境を整えることで頬粘膜の動きや舌の運動を促進する為、口腔リハビリテーションにもつながると考える。

[考察 2]

4. これまで私達は、口腔ケアを画一的に実践していたが、今回の研究結果から高齢者の口腔内の状況はさまざまであり、特に口腔乾燥へのケアニーズが高いことがわかった。今後は、個別のニーズに即した口腔ケアを実践するには、口腔内の状況をアセスメントすることが重要である事を再確認した。

5. 認知症やコミュニケーションの困難な高齢者の口腔ケアの基本は、こちよさを伝えることであり、今後も更に「緩和口腔ケア」の充実を図ることが必要であると考えられる。